

高性能デッキを全国に

文教施設向けのウッドデッキ

ケーワンシステム



弾力性試験も行い性能を明らかにしている

野において、安全性と高性能という2つを持ち合わせた製品として注目が高まっている。

文教Playタイプは、ZAM鋼製床下地と人工木材で形成するウッドデッキに、体育館の性能として求められる床の適度な硬さと柔らかさを取り入れた。安全性を考慮し、転倒時のけがを減らすため緩衝効果値を考慮した製品として開発された。適度な弾力性を持たせることで、同デッキ上での運動時にけがの少ない環境が提供できる。

鋼の特許技術で製造された耐候性に優れたZAM鋼板と、万協の支持脚PDB型と同社の支持脚固定材のスラブロックを使用。デッキ材部分は、固定条件の人工木材中空タイプを使用し、各社の技術を集め作られた。

同システムは、万協とともに、実用新案を共同出願するなどの取り組みも行っている。同タイプは、高性能を有するものの、特別な施工、施工設備を必要としない。そのため全国どこでも利用できる。

店でもあるケーワンシステム(札幌市、原田慶一社長)は、新たなウッドデッキシステム「K1デッキ文教Playタイプ」を発表した。K1デッキシステムの性能を文教施設向けに適用したもので、使用回数が多く耐久性が求められるデッキ分

一部構成に、日新製

同社は、実用化に向け、硬さ試験や弾力性試験を行い、体育館JIS規格で求められる床の硬さ100GS以下を達成するとともに、JIS A16519準拠試験をクリアしている。万協(東京都、清水雅弘社長)の協力により、泰成電機工業で繰り返し試験を行うなかで、改修と性能向上を図り完成させた。

原田社長は「公共施設で木質化が進められる半面、今まであまりデッキ分野の性能まで関心が示されなかったが、デッキにおいても耐久性などが求められるなかで、当社の文教Playタイプの安全性の意味が生きてくると思う。18年に向けては、同製品を全国に知ってもらうことで、採用を高めていきたい」と語る。

公共建築物等木材利用促進法で、構造、内・外装材で木材利用が高まるなか、近年その安全性を重視する姿勢が高まっている。

そんななか2017年に北海道を中心に二重床の供給、施工を行い万協フロアーの特約

が求められるデッキ分

一部構成に、日新製

同社は、実用化に向け、硬さ試験や弾力性試験を行い、体育館JIS規格で求められる床の硬さ100GS以下を達成するとともに、JIS A16519準拠試験をクリアしている。万協(東京都、清水雅弘社長)の協力により、泰成電機工業で繰り返し試験を行うなかで、改修と性能向上を図り完成させた。

同社は、実用化に向け、硬さ試験や弾力性試験を行い、体育館JIS規格で求められる床の硬さ100GS以下を達成するとともに、JIS A16519準拠試験をクリアしている。万協(東京都、清水雅弘社長)の協力により、泰成電機工業で繰り返し試験を行うなかで、改修と性能向上を図り完成させた。